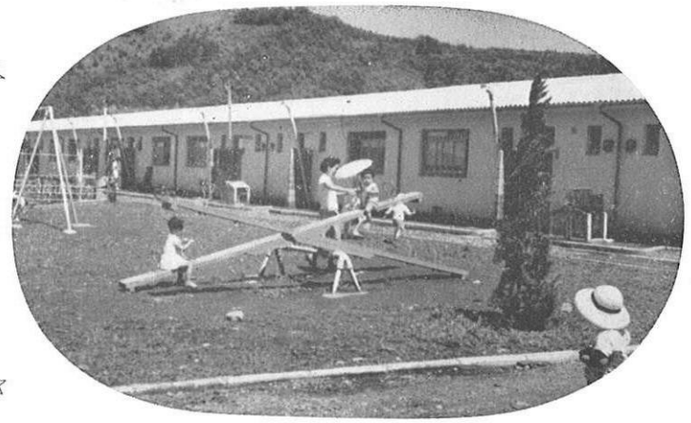
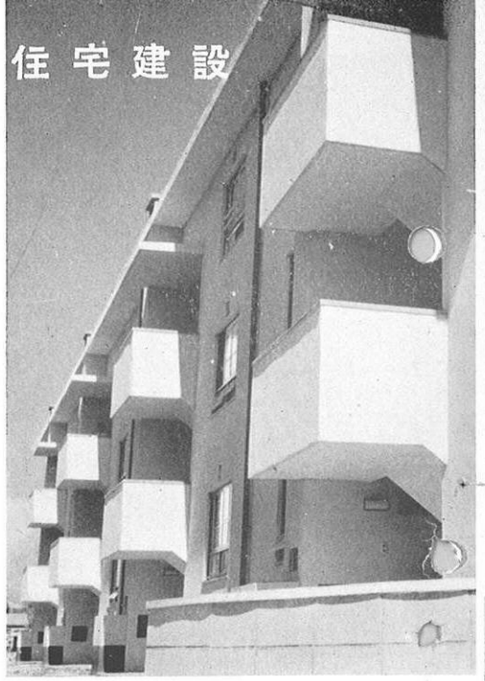
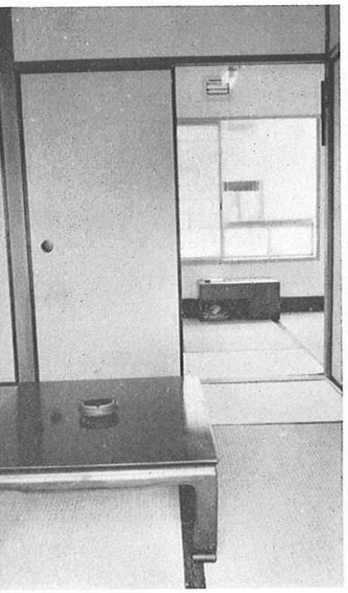
進む住宅建設

こゝに紹介するスナップは最近熊本市内に建設されたアパートや建売住宅の一例です



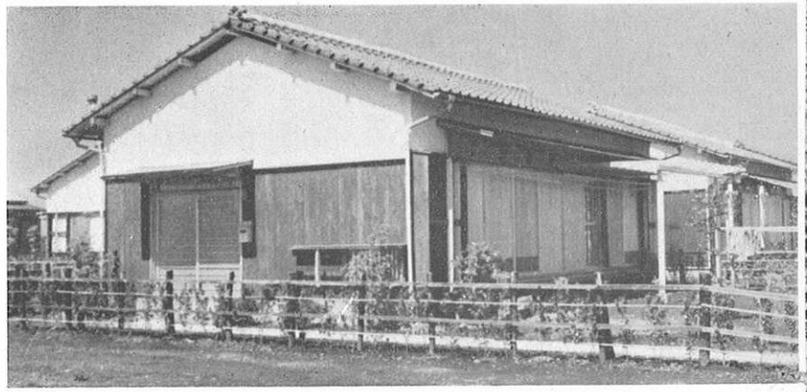
↑ 簡易耐火構造(県営第一種)平屋建……団地の中庭には子供の遊び場も設けてある





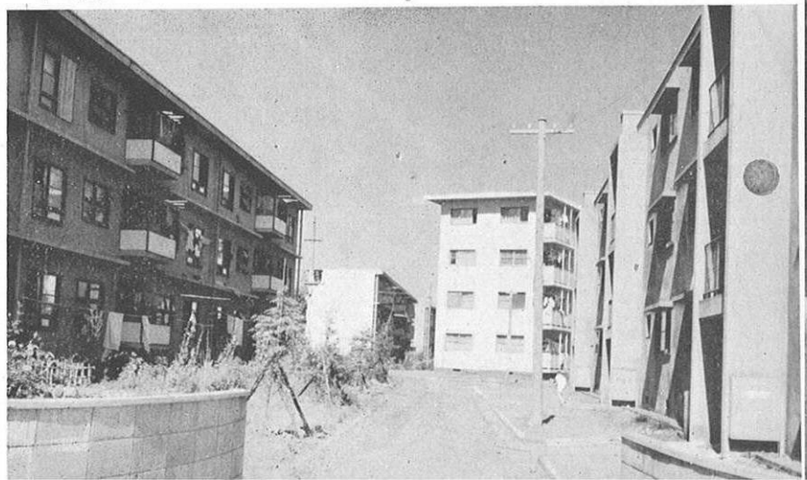
← 中層耐火構造(県営第一種)アパートの明るい室内

↓ 県営建売住宅の一例……庭が広いのも一つの特徴

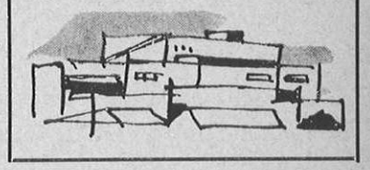


← 中層耐火構造アパートの室内……台所の設備も近代化されている

↓ 建ちならぶアパート群、中庭の緑化も日をおつて……



住宅難解消へ



終戦直後より三十四年度までに建設された公営住宅の全国総数は約六十九万戸に達しています。本県でも、三十四年度までに県下で九千二百三十八戸、うち、県営住宅として一千八百七十九戸を建設しています。

三十五年度も、県及び二十一の市町村が、合計七百九十五戸を建設する事になつています。内訳は、第一種住宅三百六十二戸、第二種住宅四百三十三戸その中、県営住宅は、第一種住宅八十四戸、第二種住宅五十一戸、計百三十五戸となつています。

住宅の一種、二種とは…■

第一種住宅は建設費の½を、第二種住宅は⅔を国家が補助するものです。

又、第一種住宅は月収一万六千円から三万二千円迄の人が入居資格があり、家賃は月額約千八百円から三千円位となつています。これに対し、第二種住宅は、月収一万六千円以下の人に対し、家賃は約千円乃至千八百円位となつています。

第一種、二種住宅共それぞれ木造、コンクリートブロック造、鉄筋コンクリート造等があり、本県では

(第一種住宅)
木造平家　一〇、五坪(一戸当り)
コンクリートブロック造平家　一〇、五坪(〃)
コンクリートブロック造二階建　一二、〇坪(〃)
鉄筋コンクリート造(三階建)　一二、〇坪(〃)

(第二種住宅)
木造平家　八、五坪(一戸当り)
コンクリートブロック造平家　八、五坪(〃)

の各種がすでに建設されました。

今年度は、第三種住宅コンクリートブロック造二階建も牛深市に八戸計画されています。

はげしい競争率……■

これ等の建設戸数に対し、どれくらいの入居申込があるかと申しますと、市内郡部によつて、相違があり一概にはいえませんが、昨年度の熊本市の場合を例にとりますと、最高二二、五倍、最低四、二倍、平均一三、七倍となつています。又、郡部平均の競争率は三、五倍となつており、この状況からしても、住宅難の解消はなお程遠い感じです。

住宅難をどう解消する…■

では住宅難解消の見込みはどうなつているか、又、これに対する県の対策はどうなつているのでしょうか。

全国で戦後四百二十万戸あつた住宅不足数は現在約百四十五万戸位で、全国平均して各都道府県当り、約三万戸あまりとなり、本県の不足数五万七千戸はその一、七倍位と思われます。いわば本県の住宅建設はそれだけおくれているわけです。

さらに国の協力を得て…■

政府は右の全国不足数を四十年度までに解消するという計画をたてゝいますが、本県でも、ゼヒそれに足並を揃えて、他におくれることがないようにしなければなりませんが、そのためには、非常な努力を要します。

過去三ヵ年間の公営住宅建設は県下で、年に、約八百戸ほども建設されていますが、なお満足な住生活を確保するには仲々のことではないと思われます。

そのため県では、今後三十六年度から三ヵ年間に七千五百戸、年間二千五百戸位の公営住宅建設の枠を国の協力を得て計画しています。

それに経済力の好転による民間の自力建設、その他の建設戸数増加も見込まれるので、何とかして全国の住宅不足解消に足並を揃えるよう努力したいと思います。

(建築課)

社会を明るくする運動 (7月中)

犯罪のない明るい社会を

犯罪は人間の社会にとつてまぬがれない災厄の一つです。しかし病気には手当が必要であるように、たゞ放つておくだけでは犯罪はなくなりません。まして犯罪者といつても、それは個人として尊重さるべき国民の一人なのです。これらの人びとが再び間違つた道にふみこまないように援け励ましましよう。